

○いすみ会式「スイミー」の授業実践を通して

・成功体験をもたせてくれる授業

今回、実際に授業をやってみて、改めていすみ会式の授業はどの子も安心して参加できるものであると実感した。小見出しの付け方、発問の内容がどれも精選されており、私にとっても非常に実践しやすい内容であった。更に、子供にとっても分かりやすいものである。指導書やネットに載っている国語の活動内容は、ワークシートを活用したものが多く、物語文の場合、「〇〇の気持ちを考えよう」という活動を良く見かける。特別支援学級の場合、相手の気持ちを想像したり考えたりすることに課題をもっている児童は多く、指導書等のやり方ではついていけないのが現状である。かといって、児童は何も想像できず、考えていないわけではない。ワークシート型の授業をすることによって「書く」ことに抵抗のある児童は書けず、また「言葉で表現する」ことに課題のある児童が表現できずにいるだけである。ということに、今回いすみ会式で授業をやってみて気付かされた。(第2次指導) まず範読のあとに子どもたちに「スイミーキズ」を行ったところ、どの児童も非常によく物語を読み込むことができることが分かった。その上でワークシートに小見出しをつける活動に入つたが、「スイミーが見た生き物の名前を書く」というものなので、教科書を見れば書くことができる。「書く」ことに抵抗のある児童でも、個別に対応しながら全て記入することができた。(今までやってきて、あまり例を見ないことがある。) そして、活動内容が非常に分かりやすいものであるために、全員が正解することができる。このとき自分で丸を付けさせ、子どもから「合ってるー！」という声が挙がった。特別支援学級では、この成功体験が何より大切だと考える。スイミーの学習をこれから始める上で、子どもたちのこの成功体験は大変大きなものだったと感じる。

スイミーの学習全体を通して、児童は物語を大変よく読み込み、世界に入り込むことができていた。これは、スイミーという題材が子どもたちを引き付けるものであることと、いすみ会式で実践できたことに理由がある。今後、私の学級では「どうぶつ園のじゅうい」の学習を考えている。児童にとってあまり馴染みのない説明文の学習だが、児童の興味関心を十分引き出すため、今回の実践を踏まえてまたいすみ会式授業を行いたいと考えている。

・課題点

- 児童の思わず反応 ●ワークシートの使用 ●児童の実態の違い
- 音読について
 - ・常に教師の範読からすすめる
 - ・丸読み
 - ・場面ごとに褒める
- 挿絵・カードの使用